

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

事業報告書

第 12 卷

令和 7 年度

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

巻 頭 言

令和7年度の本看護キャリア支援センターの主要事業は、昨年度に引き続き皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程（特定行為研修を含む）を開講し、地域の高度実践看護師育成に寄与することをございました。本年度も4月10日に受講生を迎え、3月26日に修了式を挙げていたしました。

令和6年度に開講した第1期生30名は、令和7年に実施された認定看護師資格試験において「全員合格」という大きな成果を上げました。これは受講生自身の努力はもちろん、実習指導ならびに教育にご協力いただいた多くの医療機関と指導者の皆様のお力添えの賜物であり、深く感謝申し上げます。

本教育課程は特定行為研修の指定教育機関として厚生労働省より認められていますが、本センターは病院を有していないため、特定行為研修に必要な実習はすべて地域の協力施設にご支援いただいております。本年度も各施設におかれましては、受講生の有無にかかわらずご協力いただき、必要症例数の確保に多大なるご尽力を賜りました。心より御礼申し上げます。また、認定看護師教育においては、北陸3県の皮膚・排泄ケア認定看護師の皆様が、昨年度に引き続き丁寧かつ熱心に実習指導にあたってくださり、地域の認定看護師教育の基盤がさらに強固なものとなっております。

なお、皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程は来年度も継続して開講いたしますが、令和10年度以降の開講分野につきましては、北陸3県における専門分野のニーズが多様化しており、引き続き検討を進めている段階です。地域の皆様のお声を伺いながら、真に求められる教育を提供できるよう取り組んでまいります。

本看護キャリア支援センターは、認定看護師教育課程の開講の他に保健医療従事者の看護の質向上につなげるために、リカレント教育事業に加え、石川県からの委託事業として専門的看護実践力研修事業（分野別実践看護師養成研修）「皮膚・排泄ケア」や石川県看護教員現任研修にも取り組んでまいりました。

本看護キャリア支援センターは、これからも地域医療の発展に貢献すべく、質の高い看護教育の提供に努めてまいります。皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

石川県立看護大学

附属看護キャリア支援センター長

紺家 千津子

目 次

| | |
|--|-------|
| I. 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程（B課程） | 1-7 |
| 1. 目的 | 1 |
| 2. 実施状況 | 1 |
| 3. 実施内容 | 1-7 |
| 4. 評価 | 7 |
| 5. 今後の課題 | 7 |
| II. 認定看護師教育課程フォローアップ研修 | 8-9 |
| 1. 目的 | 8 |
| 2. 修了生全体を対象とした講演会 | 8 |
| 3. 認知症看護認定看護師教育課程（1～3期生） | 8 |
| 4. 評価 | 9 |
| 5. 今後の課題 | 9 |
| III. 専門的看護実践力研修事業（分野別実践看護師養成研修）「皮膚・排泄ケア」 | 10-15 |
| 1. 目的 | 10 |
| 2. 目標 | 10 |
| 3. 募集人員および研修方法 | 10 |
| 4. 実施状況 | 10 |
| 5. 実施内容 | 10-12 |
| 6. 評価および今後の課題 | 12-15 |
| IV. 石川県看護教員現任研修 | 16-18 |
| 1. 目的・目標 | 16 |
| 2. 実施状況 | 16 |
| 3. 実施内容 | 16-17 |
| 4. 評価 | 17-18 |
| 5. 今後の課題 | 18 |
| V. リカレント教育事業 | 19 |
| 1. 目的・目標 | 19 |
| 2. 実施事業および内容 | 19 |
| 3. 評価および今後の課題 | 19 |
| VI. 地域貢献 | 20 |
| 1. 各機関からの依頼による派遣事業 | 20 |

I. 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程（B 課程）

1. 目的

- 1) 皮膚・排泄ケア分野において、個人、家族及び集団に対して、高い臨床推論力と病態判断力に基づき、熟練した看護技術及び知識を用いて水準の高い看護を実践できる能力を育成する。
- 2) 皮膚・排泄ケア分野において、看護実践を通して看護職に対し指導を行える能力を育成する。
- 3) 皮膚・排泄ケア分野において、看護職等に対しコンサルテーションを行える能力を育成する。
- 4) 皮膚・排泄ケア分野において、多職種と協働しチーム医療のキーパーソンとしての役割を果たせる能力を育成する。

2. 実施状況

【期間】

令和7年4月10日（木）～令和8年3月26日（木）

【履修生の背景】

1) 基本属性

| | | |
|----------|------------------------------|-----|
| 履修生数 | 30名 | |
| 男女別 | 男性4名 女性26名 | |
| 平均年齢 | 39.0歳（29～54歳） | |
| 所属施設の所在地 | 石川県内 | 6名 |
| | 石川県外 | 24名 |
| 所属機関 | 病院26名 訪問看護ステーション3名 グループホーム1名 | |

2) 入学時の臨床経験年数 16年4か月

3) 特定行為研修既取得者 3名

3. 実施内容

【教育課程の実施概要】

| 項目 | 期間 |
|------------------|--|
| 入学式・ガイダンス | 令和7年4月10日（木）・11日（金） |
| 講義開始（eラーニング視聴開始） | 令和7年4月 |
| eラーニング期間の対面授業 | 令和7年5月28日（水）～5月30日（金） 令和7年6月25日（水）～6月27日（金） |
| 対面講義開始 | 令和7年7月28日（月） |
| 認定看護師分野実習 | 10月～11月（5週間） |
| 区分別科目実習 | 12月～2月 区分別科目における実習は規定症例数を満たした時点で終了 |
| 統合演習 | 令和8年2月27日（金） |
| 修了試験 | 令和8年3月5日（木） |
| 修了式 | 令和8年3月26日（木） |

【年間進度表】

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----|--------------------|--|----|------------|------------|--------------|------|-----|----|-----|----|
| 入学式 | eラーニング 特定行為共通科目 | 集合教育等 認定看護師分野 共通科目・専門科目 特定行為区分別科目 | | 実習 | | | 学内演習 | | | 修了式 | |
| | | | | 認定 臨地実習 | 特定行為 実習 | 統合演習 修了試験 | | | | | |

【カリキュラム】

認定看護師教育課程のカリキュラムは、認定看護師の水準を均質にするため、公益社団法人日本看護協会が定める教育基準カリキュラムに則って構成されている。日本看護協会が定めた認定看護師教育基準カリキュラムは、各分野に共通している「共通科目」と各分野の専門的知識を学ぶ「専門科目」、「学内演習及び臨地実習」に分かれている。修了要件は、「共通科目」「専門科目」「学内演習及び臨地実習」のすべての授業科目を履修し、かつ修了試験に合格することである。

【授業科目および時間数一覧】

| 授業科目 | | 時間数 | |
|------|---------------------|-----|-----|
| 共通科目 | 臨床病態生理学 | 40 | 380 |
| | 臨床推論 | 45 | |
| | 臨床推論：医療面接 | 15 | |
| | フィジカルアセスメント：基礎 | 30 | |
| | フィジカルアセスメント：応用 | 30 | |
| | 臨床薬理学：薬物動態 | 15 | |
| | 臨床薬理学：薬理作用 | 15 | |
| | 臨床薬理学：薬物治療・管理 | 30 | |
| | 疾病・臨床病態概論 | 40 | |
| | 疾病・臨床病態概論：状況別 | 15 | |
| | 医療安全学：医療倫理 | 15 | |
| | 医療安全学：医療安全管理 | 15 | |
| | チーム医療論（特定行為実践） | 15 | |
| | 特定行為実践 | 15 | |
| | 指導 | 15 | |
| | 相談 | 15 | |
| 看護管理 | 15 | | |
| 専門科目 | 皮膚・排泄ケア概論 | 15 | 195 |
| | 皮膚のアセスメントとケア | 30 | |
| | 精神面のアセスメントとケア | 15 | |
| | 排便機能に破綻をきたす病態の理解と評価 | 15 | |
| | 排尿機能に破綻をきたす病態の理解と評価 | 15 | |
| | ストーマの管理 | 30 | |
| | 排泄障害の管理 | 30 | |
| | 創傷のアセスメントと管理 | 45 | |

| | | | | |
|-------|-----------------|--|-------|------------------------------|
| | 特定行為研修 区分別科目 | 創傷管理関連 | 4 6 | 6 8 |
| | | 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 | 2 2 | |
| 演習・実習 | 統合演習 | | 1 5 | 1 6 5 |
| | 臨地実習 | | 1 5 0 | |
| | 特定行為実習 | 高カロリー栄養 症例脱水管理 壊死組織の除去 局所陰圧閉鎖療法 | | 5 症例 5 症例 5 症例 5 症例 |
| 合計時間数 | | | | 8 0 8 |

*認定看護師教育基準カリキュラムでは45分を1時間とみなす「みなし時間」を適用している。特定行為研修は60分を1時間とする「実時間」を適用しているが、該当教科目の時間数は全て「みなし時間」で設定し表記している。

【担当教員】

主任教員：石井 光子（講師）

担当科目：チーム医療論（特定行為実践）、指導、相談、皮膚・排泄ケア概論、
皮膚のアセスメントとケア、ストーマの管理、排泄障害の管理、
創傷のアセスメントと管理、統合演習、臨地実習

専任教員：宮崎 梓（講師）

担当科目：チーム医療論（特定行為実践）、指導、相談、皮膚・排泄ケア概論、
皮膚のアセスメントとケア、ストーマの管理、排泄障害の管理、
創傷のアセスメントと管理、統合演習、臨地実習

【非常勤講師】

共通科目（認定看護師分野も含む）と特定行為研修「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」は日本看護協会のeラーニング教材を使用した。特定行為研修「創傷管理関連」はS-QUE研究会のeラーニング教材を使用した。

専門科目は皮膚・排泄ケア分野において第一線で活躍する本学の教員や各専門分野の大学の教授・准教授・講師、医師や看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師の方々に非常勤講師として講義・演習等を担当していただいた。ここでは、eラーニングの講師以外を示した。

| 講師名 | 所属 | 担当科目 |
|--------|---|----------------------------|
| 岩佐 和夫 | 石川県立看護大学 健康科学講座 教授 | 臨床推論：医療面接 フィジカルアセスメント基礎 |
| 中橋 毅 | 金沢医科大学 能登北部地域医療研究所 所長 教授 | 臨床推論：医療面接 フィジカルアセスメント基礎 |
| 守屋 純二 | 金沢医科大学 総合内科学 准教授 | 臨床推論：医療面接 フィジカルアセスメント基礎 |
| 山田 鈴世 | 石川県立中央病院 医療安全部 医療安全管理室 医療メディエーター 認定看護管理者 | 医療安全学：医療安全管理 |
| 池田 富三香 | 公益社団法人石川県看護協会 常任理事 | 看護管理 |
| 真田 弘美 | 石川県立看護大学 学長 皮膚・排泄ケア認定看護師 | 皮膚・排泄ケア概論 |

| 講師名 | 所属 | 担当科目 |
|--------|---|--|
| 紺家 千津子 | 石川県立看護大学 成人看護学 教授 看護キャリア支援センター長 皮膚・排泄ケア認定看護師 | 皮膚・排泄ケア概論 精神面のアセスメントとケア 創傷のアセスメントと管理 |
| 田中 秀子 | 博悠会温泉病院 副院長 皮膚・排泄ケア認定看護師 | 皮膚・排泄ケア概論 |
| 高橋 秀典 | JCHO 勝山総合病院 皮膚科診療部長 | 皮膚のアセスメントとケア |
| 峰松 健夫 | 石川県立看護大学 成人看護学 教授 | 皮膚のアセスメントとケア 創傷のアセスメントと管理 |
| 大貝 和裕 | 石川県立看護大学 看護理工学共同研究講座 共同研究講座 教授 | 皮膚のアセスメントとケア |
| 臺 美佐子 | 石川県立看護大学 成人看護学 教授 リンパ浮腫療法士 医療リンパドレナージセラピ スト 中級弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター | 皮膚のアセスメントとケア |
| 松井 優子 | 石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター 特任教授 がん化学療法看護認定看護師 | 皮膚のアセスメントとケア |
| 千原 裕香 | 石川県立看護大学 小児看護学 准教授 | 精神面のアセスメントとケア |
| 松本 友梨子 | 福井県済生会病院 がん看護専門看護師 | 精神面のアセスメントとケア |
| 渡邊 千登世 | 埼玉県立大学 保健医療福祉学部 看護学科 教授 皮膚・排泄ケア認定看護師 | 精神面のアセスメントとケア |
| 藤田 秀人 | 金沢医科大学 一般消化器外科学 准教授 | 排便機能に破綻をきたす病態 の理解と評価 |
| 河野 美幸 | 医療法人社団浅ノ川 千木病院 副院長 | 排便機能に破綻をきたす病態 の理解と評価 排尿機能に破綻をきたす病態 の理解と評価 |
| 津田 桃子 | 株式会社つだももこ | 排便機能に破綻をきたす病態 の理解と評価 |
| 森山 学 | 金沢医科大学氷見市民病院 副院長 泌尿器科 教授 | 排尿機能に破綻をきたす病態 の理解と評価 |
| 西本 由美 | 小松市民病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 | ストーマの管理 |
| 小柳 礼恵 | 藤田医科大学 保健衛生学部 准教授 皮膚・排泄ケア認定看護師 | ストーマの管理 |
| 山下 美樹 | JCHO 金沢病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 | ストーマの管理 |
| 小西 千枝 | 金沢赤十字病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 | ストーマの管理 |
| 遠藤 瑞穂 | 公立松任石川中央病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 | 排泄障害の管理 |

| 講師名 | 所属 | 担当科目 |
|--------|--|---------------|
| 溝上 祐子 | 東京医療保健大学 大学院 医療保健学研究科 プライマリケア看護学領域 教授 E.T | 排泄障害の管理 |
| 小町 菜亜莉 | 小松市民病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 | 排泄障害の管理 |
| 大桑 麻由美 | 金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 | 排泄障害の管理 |
| 須釜 淳子 | 藤田医科大学 保健衛生看護学科 教授 | 創傷のアセスメントと管理 |
| 神野 俊介 | 一般社団法人オーディナリーライフ 代表 理学療法士 | 創傷のアセスメントと管理 |
| 幅 大二郎 | 石川県立看護大学 共同研究講座 ウェルビーイング看護学 講師 | 創傷のアセスメントと管理 |
| 木下 幸子 | 中部学院大学 看護学科 基礎看護学講座 教授 皮膚・排泄ケア認定看護師 | 創傷のアセスメントと管理 |
| 大江 真琴 | 金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 | 創傷のアセスメントと管理 |
| 志村 知子 | 医療法人幸優会訪問看護ステーションPono 所長 皮膚・排泄ケア認定看護師 | 創傷のアセスメントと管理 |
| 松本 勝 | 石川県立看護大学 共同研究講座 ウェルビーイング看護学 教授 | 創傷のアセスメントと管理 |
| 一瀬 文江 | 公立能登総合病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 | 創傷のアセスメントと管理 |
| 小室 明人 | 金沢大学附属病院 形成外科 診療科長 | 特定行為研修 創傷管理関連 |
| 島田 賢一 | 金沢医科大学 形成外科 教授 | 特定行為研修 創傷管理関連 |

【認定分野臨地実習施設】

| No | 施設名 | 実習指導者 |
|----|----------------------|--------------|
| 1 | 国立大学法人 富山大学附属病院 | 吉井 忍 秋山 愛 |
| 2 | 富山県立中央病院 | 志田 麻衣子 藤元 岬 |
| 3 | 富山県厚生連農業協同組合連合会 高岡病院 | 開 千春 山田 優子 |
| 4 | 市立砺波総合病院 | 森田 初美 |
| 5 | 高岡市民病院 | 東城 美智代 河上 裕子 |
| 6 | 公立能登総合病院 | 一瀬 文江 花出 利恵 |
| 7 | 地域医療機能推進機構 金沢病院 | 山下 美樹 久保田 陽子 |
| 8 | 国立病院機構 金沢医療センター | 尾西 恵理 |
| 9 | 金沢赤十字病院 | 小西 千枝 |

| No | 施設名 | 実習指導者 |
|----|----------------------|-------------------|
| 10 | 石川県立中央病院 | 村田 幾美 栗田 純礼 |
| 11 | 白山石川医療企業団 公立松任石川中央病院 | 寺田 満美子 |
| 12 | 国民健康保険 小松市民病院 | 西本 由美 小町 茉亜莉 |
| 13 | 国立大学法人 福井大学医学部附属病院 | 加納 恭子 |
| 14 | 福井赤十字病院 | 水島 典子 上口 美恵 |
| 15 | 福井県済生会病院 | 吉村 紀美枝 山口 静 木下 治子 |
| 16 | 福井県立病院 | 宮嶋 仁美 岡田 さおり |

【特定行為研修実習施設および実習した特定行為一覧】

履修生の所属施設で実習を行った。症例が不十分な場合は自施設以外の協力施設で実習を行った。

注：○：自施設で全症例実施

△：自施設で全症例とれない

—：自施設では実習症例がない

| 実習施設 1（履修生の所属施設における実習施設） | 創傷管理 | | 栄養水分 | |
|--------------------------------------|------|------|------|---------|
| | 壊死組織 | 陰圧閉鎖 | 脱水 | 高カロリー輸液 |
| 国立大学法人 金沢大学附属病院 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 小松市民病院 | | | ○ | ○ |
| 医療法人社団浅ノ川 千木病院 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 高岡市民病院 | △ | △ | ○ | ○ |
| 独立行政法人地域医療機能推進機構 福井勝山総合病院 | ○ | ○ | — | — |
| 社会福祉法人恩賜財団 福井県済生会病院 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 地方独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立医療センター中央市民病院 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立墨東病院 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 国立大学法人 弘前大学医学部附属病院 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 公立学校共済組合 北陸中央病院 | — | — | ○ | ○ |
| 南和広域医療企業団 南奈良総合医療センター | △ | — | ○ | △ |
| 高知大学医学部附属病院 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 鹿児島大学病院 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 医療法人博俊会 春江病院 | △ | — | △ | △ |

| 実習施設 1（履修生の所属施設における実習施設） | 創傷管理 | | 栄養水分 | |
|--------------------------|------|------|------|---------|
| | 壊死組織 | 陰圧閉鎖 | 脱水 | 高カロリー輸液 |
| 独立行政法人国立病院機構 下総精神医療センター | — | — | ○ | — |
| 独立行政法人国立病院機構 敦賀医療センター | — | — | ○ | ○ |
| 川崎市立川崎病院 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 独立行政法人国立病院機構 豊橋医療センター | — | △ | ○ | △ |
| 留萌市立病院 | — | — | △ | — |
| 水戸赤十字病院 | ○ | △ | ○ | △ |
| JA 北海道厚生連帯広厚生病院 | ○ | — | ○ | ○ |
| 徳島赤十字病院 | ○ | ○ | ○ | ○ |

| 実習施設 2（履修生の所属施設以外の実習施設） | 創傷管理 | | 栄養水分 | |
|-------------------------|------|------|------|---------|
| | 壊死組織 | 陰圧閉鎖 | 脱水 | 高カロリー輸液 |
| 石川県立中央病院 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 金沢医科大学病院 | ○ | ○ | — | — |
| 公立松任石川中央病院 | — | — | ○ | ○ |
| 独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター | ○ | △ | — | ○ |

4. 評価

履修生の学習到達度評価においては、本年度も多くの履修生が教育内容全般に対する理解と臨床に即した判断力や対応力の獲得が図られていたことが確認された。授業評価では、専門医や理学療法士等の他職種による講義により、多角的視点から対象を捉える力が養われたとの意見が認められた。

また、演習や事例検討において履修生同士のディスカッションの機会を意図的に多く設けたことにより、主体的・協働的な学習が一層促進された。さらに、修了生と在学生が交流し、認定審査合格に向けた学習と実務の両立や心構えについて意見交換を行う機会を設けたことで、履修生の学習意欲の向上や将来像の具体化に寄与したと評価している。

これらより、認定看護師に求められる対象理解の深化、多職種連携の実践力、ならびに臨床推論力・病態判断力に基づく質の高い看護実践能力の育成において、一定の教育効果が得られたと考える。一方で、一部の科目においては評価が相対的に低い結果も認められたことから、内容や教育方法のさらなる精査が必要である。

5. 今後の課題

今後の課題として、まず評価が相対的に低かった科目に対する教育内容および指導方法の改善が挙げられる。履修生の学習ニーズや臨床現場との接続性を踏まえた教育設計の見直しを行い、より効果的な学習支援体制を検討していく。また、教育課程修了後の継続教育およびフォローアップ体制の強化も重要である。修了生が臨床現場において役割を発揮し続けるためには、知識・技術の更新のみならず、実践上の課題を共有・検討できる継続的な学習機会が必要である。そのため、修了生同士や在学生との交流を含めたネットワークの維持・発展、および研修機会の充実を図る体制を整備していく。

II. 認定看護師教育課程フォローアップ研修

1. 目的

看護キャリア支援センター認定看護師教育課程の修了生のブラッシュアップを支援する。

2. 修了生全体を対象とした講演会

【日時】令和7年10月11日(土) 13:00～17:20

【参加者】77名(認知症看護認定看護師19名 感染管理認定看護師43名 皮膚・排泄ケア認定看護師15名) (外部82名、合計159名)

【実施内容】

○講義

演題：ストーリーで覚える細菌と抗菌薬

講師：平川 貴規(光が丘スペルマン病院 東北医科薬科大学医学部 臨床准教授)

○講義

演題：臨床推論のフレームワークと応用

講師：平川 貴規(光が丘スペルマン病院 東北医科薬科大学医学部 臨床准教授)

○グループワーク

認定看護師としての今後の展望と組織内での役割・リーダーシップを考える

池田 富三香(公益社団法人石川県看護協会 常任理事)

江藤 真由美(石川県立中央病院 看護部長)

【日時】令和8年3月4日(水) 13:00～16:10

【参加者】88名(認知症看護認定看護師46名 感染管理認定看護師19名 皮膚・排泄ケア認定看護師23名)

【実施内容】

○講義

演題：老いても忘れても自分らしく地域で生き、生き、逝くために！ ～これからの時代に求められる看護実践力とは～

講師：川島 和代(石川県立看護大学 教授)

○講義

演題：認定看護師・特定認定看護師のキャリアアップ+最新の創傷治療

講師：松村 一(東京医科大学 形成外科学分野 教授)

3. 認知症看護認定看護師教育課程(1～3期生)

【日時】令和8年3月4日(水) 16:20～17:20

【参加者】1～3期生46名

【実施内容】

◎活動報告・事例検討

- ・ 認知症高齢者の意思決定支援と倫理 1期生 大城 宏子(富山労災病院)
- ・ 認知症高齢者の意思決定支援の基盤となる「知る権利」の調整-Jonsenの4分割法を用いた倫理カンファレンスを通して- 2期生 山村 延啓(さくら総合病院)
- ・ 認知症高齢者の“食べたい”をどう支えたか-多職種協働による意思決定支援の実践- 3期生 北山 裕子(金沢市立病院)

4. 評価

今年度は、皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程の特別講演をフォローアップ研修として本学修了生に公開し、さらに皮膚・排泄ケア認定看護師と認知症看護認定看護師はコース別に実施した。

本研修は認定看護師の参加者 88 名、皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程 2 期生 29 名の合計 117 名に対し回答 110 名（回収率 94.0%）と高い関心が示され、満足度は「とても満足」74%、「概ね満足」25%と極めて高かった。また、講義内容の理解・有用性についても 8 割以上が肯定的に回答しており、実践への活用可能性についても約 75%が「活かせる」と評価した。自由記述では、キャリア形成やマネジメント、マーケティングに関する学びが多く挙げられ、現場のニーズを踏まえた活動の重要性や自己の役割認識の深化につながったことが示された。さらに、修了生同士の交流や他分野の視点の共有が刺激となり、今後の実践への意欲向上に寄与したと評価できる。

認知症看護分野では、「認知症高齢者の意思決定支援の現状と取り組み」をテーマに、倫理的視点や Jonsen の 4 分割法、多職種協働による支援実践が共有され、意思決定支援における倫理的判断力と実践力の共有が図られた。また、「事例発表を受けて各所属病院での今後の取り組みについて考察する」というテーマでグループディスカッションを行い、臨床実践の質向上および自己の役割認識の強化に寄与したと評価できる。

5. 今後の課題

今後の課題として、学習内容を実践へ確実に結びつける支援の強化が必要である。実践活用の肯定的評価は高い一方で約 2~3 割は「ややそう思う」にとどまっており、具体的な活用方法の提示やフォローアップの充実が求められる。また、自由記述では「事例検討時間の不足」「より専門的内容へのニーズ」「継続開催の希望」が挙げられており、演習・ディスカッションの拡充が必要である。さらに、テーマ別ではキャリア・マネジメント（24 件）、地域連携（21 件）、多職種連携（15 件）への関心が高く、これらを体系的に扱う継続教育プログラムの整備が求められる。

Ⅲ. 専門的看護実践力研修事業（分野別実践看護師養成研修）「皮膚・排泄ケア」

1. 目的

皮膚・排泄ケア看護に関する専門的知識、技術を身に付け、看護実践力の向上を図る。

2. 目標

皮膚・排泄ケア看護に関する基本を踏まえ、エビデンスのあるケアを実践するための知識と技術を理解する。さらに、自施設におけるスキンケアの管理状況により、解決策を考えることができる。

3. 募集人員および研修方法

研修日：令和7年7月5日（土）、7月6日（日）、7月11日（金）、7月12日（土）

募集人員：40名（実務経験5年以上の看護師）

研修方法：会議ソフト「Zoom」によるオンライン講習

4. 実施状況

石川県をはじめとする14県から89名が受講した。受講者の所属施設は、病院80名、訪問看護ステーション5名、介護系施設4名であった。所属施設の所在地は、石川県69名、富山県8名、神奈川、長野県、千葉県が2名、その他に福井県、大阪府、秋田県、新潟県、福島県、宮城県からそれぞれ1名だった

5. 実施内容

令和7年7月5日（土）、7月6日（日）、7月11日（金）、7月12日（土）の計4日間、ストーマ・創傷・失禁ケアの3分野に関して、オンラインでグループワークを交えながら実施した（表1）。

表1. 令和7年度 研修プログラム

| 日時 | 分野 | 科目・講師 |
|-------------|-------|---|
| 7月5日（土） | | |
| 9:25～9:55 | | 看護の動向について 石川県健康福祉部 地域医療政策課 医療人材グループ 係主査 谷場 美雪 |
| 10:00～10:55 | Wound | 褥瘡のリスクアセスメント 福井医療大学 保健医療学部 看護学科 教授 北川 敦子 |
| 11:00～11:55 | | 体圧管理 石川県立看護大学 附属看護キャリア支援センター 講師 皮膚・排泄ケア認定看護師 宮崎 梓 |
| 13:00～13:55 | | 創傷治癒と DESIGN-R2020 石川県立看護大学 教授 紺家 千津子 |
| 14:00～14:55 | | MDRPU(医療関連機器褥瘡) 金沢医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理 |
| 15:00～15:55 | | スキンケアとドレッシング材・外用薬の選択 |

| | | JCHO 金沢病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山下 美樹 |
|-------------|---------------------------------|---|
| 日時 | 分野 | 科目・講師 |
| 7月6日(日) | | |
| 9:00~9:55 | Ostomy | 消化器ストーマと術後管理 金沢医科大学 一般・消化器外科学 准教授 藤田 秀人 |
| 10:00~10:55 | | 瘻孔管理 小川医院 院長 小川 滋彦 |
| 11:00~11:55 | Wound | 糖尿病のフットケア 金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大江 真琴 |
| 13:00~13:55 | | スキン-ケア 石川県立看護大学 附属看護キャリア支援センター 講師 皮膚・排泄ケア認定看護師 石井 光子 |
| 14:00~14:55 | | がん薬物療法時のスキンケア 石川県立看護大学 附属看護キャリア支援センター 特任教授 松井 優子 |
| 15:00~15:55 | | 褥瘡のリハビリテーション 一般社団法人オーディナリーライフ 理学療法士 神野 俊介 |
| 7月11日(金) | | |
| 9:00~9:55 | Ostomy | ストーマケアの基礎 石川県立看護大学 附属看護キャリア支援センター 講師 皮膚・排泄ケア認定看護師 石井 光子 |
| 10:00~10:55 | Wound | 褥瘡の栄養管理 石川県立看護大学 共同研究講座看護理工学 准教授 長谷川 陽子 |
| 11:00~11:55 | Ostomy | ストーマ周囲皮膚障害のスキンケア 医療法人社団 KaNaDe 皮膚・排泄ケア認定看護師 山田 清美 |
| 13:00~13:55 | Wound/ Ostomy/ Continence | ケア相談・これまでの復習 皮膚・排泄ケア認定看護師 紺家 千津子、山田 清美、宮崎 梓、石井 光子 |
| 14:00~14:55 | Ostomy/ Continence | 泌尿器ストーマと失禁の管理 金沢医科大学 氷見市民病院 泌尿器科 教授 森山 学 |
| 15:00~15:55 | Wound | 褥瘡の外科的・物理的療法 金沢医科大学 名誉教授 南ヶ丘病院 院長 川上 重彦 |
| 7月12日(土) | | |
| 9:00~9:55 | Continence | IAD(失禁関連皮膚炎)とスキンケア 金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大桑 麻由美 |
| 10:00~10:55 | Wound | 下肢の潰瘍のケア 公立松任石川中央病院 |

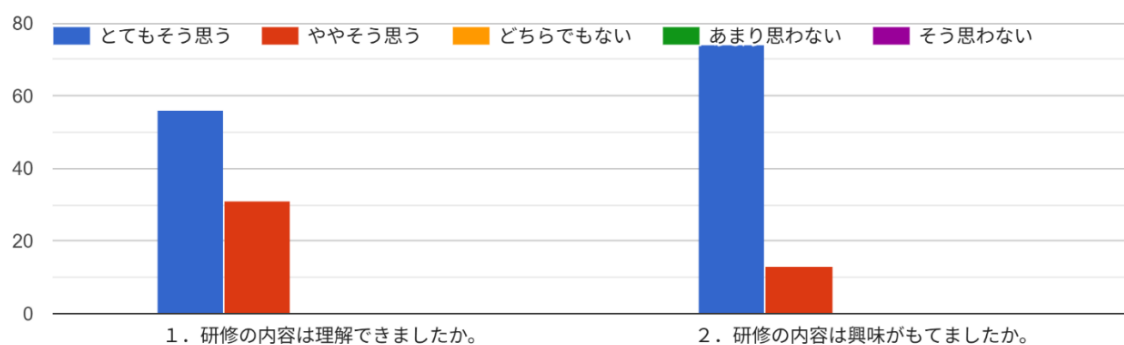
| | | |
|-------------|------------------------|---|
| | | 皮膚・排泄ケア認定看護師 遠藤 瑞穂 |
| 日時 | 分野 | 科目・講師 |
| 11:00～11:55 | Continenence | 失禁対策 公立松任石川中央病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 遠藤 瑞穂 |
| 13:00～14:10 | Wound/ Continenence | 褥瘡のケア計画 1 皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理、遠藤 瑞穂、山田 清美、山下 美樹 紺家 千津子、宮崎 梓、石井 光子 |
| 14:15～14:45 | Continenence | 褥瘡のケア計画 2 皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理、遠藤 瑞穂、山田 清美、山下 美樹 紺家 千津子、宮崎 梓、石井 光子 |

6. 評価および今後の課題

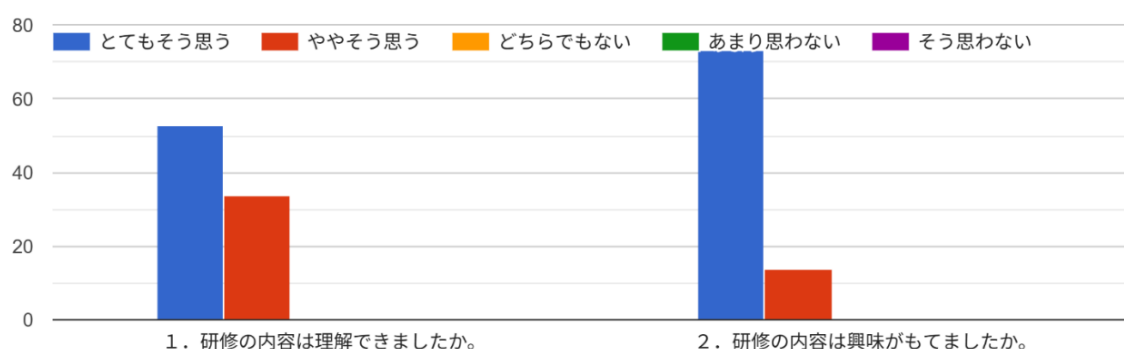
1) 受講生のアンケートによる評価

受講者89名中87名から回答を得た。

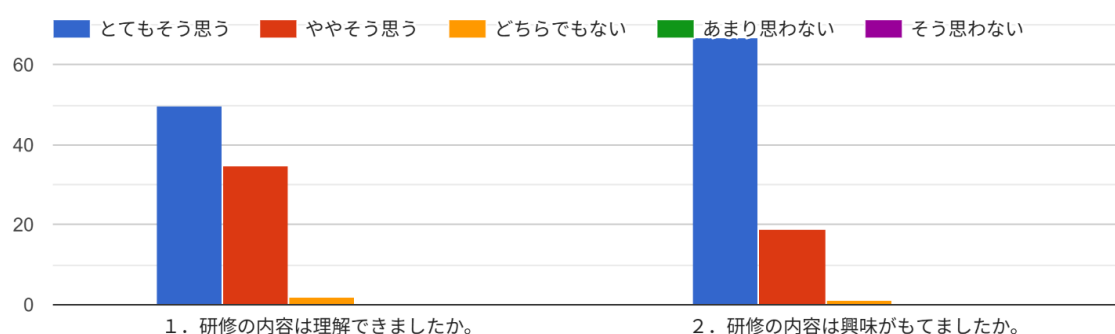
【研修全体の評価】



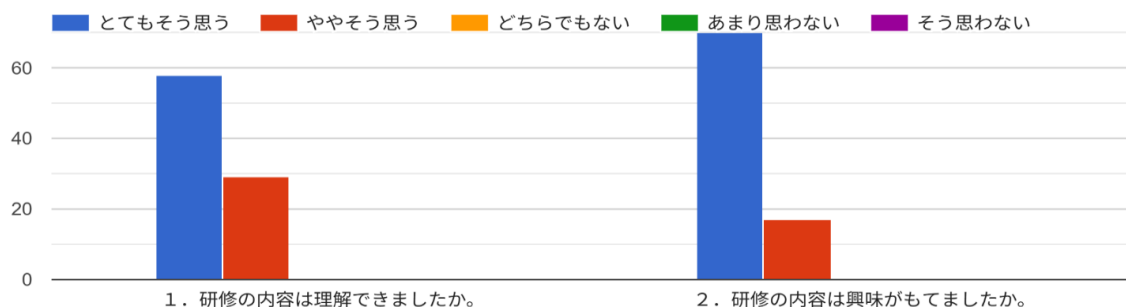
【創傷ケア分野に対する評価】



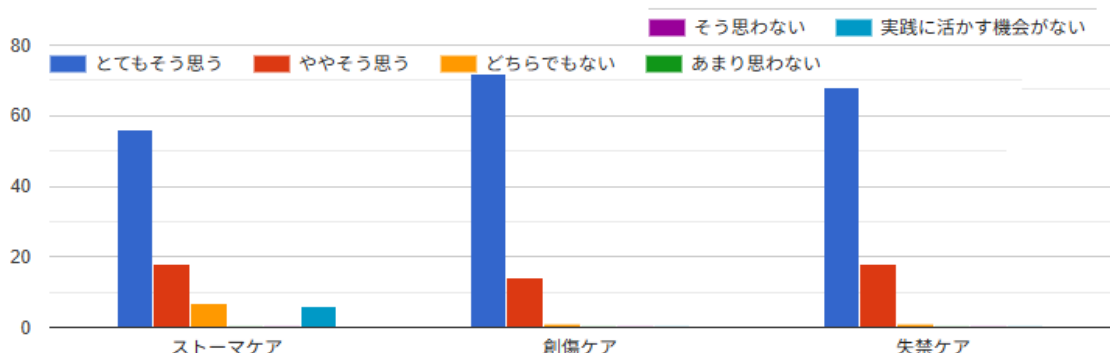
【ストーマケア分野に関する評価】



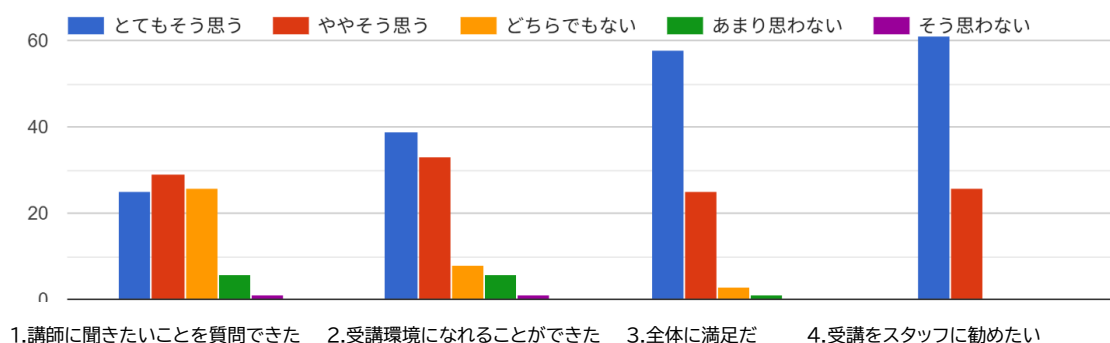
【失禁ケア分野に対する評価】



【実践に活かせる内容かに対する評価】



【オンラインによる研修に対する評価】



■受講した感想や学び（抜粋）

- IAD、下肢潰瘍のケアについて新たな知識を深める機会となりました。スキントラブルの局所管理だけでなく全身状態をアセスメントして予防ケアを実施することが大切だと学びました。
- 幅広い分野の知識を学ぶことができました。解剖や基礎的な知識、実践に近い知識などを説明していただき、自分の知識だけでなく、臨床でもすぐに実践してみたいと思いました。
- 外来皮膚科には様々な皮膚疾患、薬疹、術後創感染、ASO、糖尿病性皮膚異常など原疾患コントロールや連携が必要な方が多くいます。起きてしまった皮膚病変のみでなく、予防や啓発の観点の重要性を再認識しました。外来においてスポット的に取り入れられる介入を見つけていきたいです。
- デイサービスで勤務しているため、病院のような十分な環境や物品はありませんが、今回の研修で得た知識をもとに、観察、アセスメント、自施設で行えるケア、医療機関へ繋げるための助言など、現状でも、できることがたくさんあると思いました。
- 今までなかなか聞けずに実践してきたことが、根拠を含めて勉強できてとてもいい機会になりました。

た。臨床に持ち帰りスタッフにも周知し日々のケアの質向上に活かしたいと思いました。

- 臨床現場で分からないことや手技に対して不安に思っていた事を専門分野の先生方に直接質問ができてとても参考になりました。研修で得た知識を今後は臨床現場で生かしていきたいと思います。
- 私は皮膚・排泄ケア認定看護師の資格に興味があり、その上でこの研修を知りました。実際に WOC の方々を始め多くの方に直接質問ができて良かったです。
- 皮膚の基本的な点からケアの内容や注意点まで幅広く勉強になりました。外部の方と少しではありましたが関わる機会があり勉強の刺激になりました。

■研修方法等への感想・意見、要望など（抜粋）

- オンラインが不慣れだったので特にグループワークが難しく感じました。できれば事前に紙での資料の提示や、自分の考えを整理する時間をいただくと、活発に意見交換できたと思いました。
- 訪問看護師の参加も多かったですが、地域連携まで深める時間に行きつかなかったのが、次回は地域連携についても学びを深めることができると思います。
- 院内のストーマケア外来では、こだわりが強く自己流でやる方も多くいます。そのような方にも歩み寄ってケアしてたいと思いますが、今後の社会情勢を踏まえたポイントがあればと思います。
- 困難事例などを相談できるケース検討会があると良い。
- 胃瘻の皮膚の管理について、看護師の視点からもう少し詳しく知りたい。
- がん性皮膚潰瘍のケア方法について分からないことが多く、ケアに難渋する。
- マイクロクライメイトについて知識が不足しているので取り上げてほしいです。
- ICU や CCU など入室する循環不全の患者さんの褥瘡予防
- 介護職員を対象としたスキン-ケア、IAD、陰部洗浄
- 在宅や介護施設での皮膚・排泄ケア
- 放射線治療による皮膚障害
- ストーマサイトマーキング
- 褥瘡の治癒経過に沿った軟膏治療の使い分け
- 軟膏の塗り方（量等）
- 除圧・ポジショニング、ずれ・圧迫へのケア、適切な洗浄方法と注意点
- 経管栄養の方の排便コントロール
- 類天疱瘡

2) 全体的な評価と今後の課題

本研修に対する参加者の評価は今年度も非常に高く、専門的知識の習得および臨床実践に直結する内容であったと評価できる。理解度は「とてもそう思う」64.4%、「ややそう思う」35.6%と全員が肯定的に回答し、関心についても「とてもそう思う」85.1%と高値を示したことから、教育効果の高さが確認された。

内容面では、創傷・ストーマ・失禁といった WOC 各分野における知識の整理に加え、評価指標やケアの根拠についての理解が深まり、日常実践の見直しや質向上につながったとの意見が多く認められた。また、多職種による講義により多角的視点からの学びが得られ、自身の課題の明確化や今後の学習目標の具体化に寄与した点も重要である。さらに、参加者間の意見交換を通じて他施設の実践を知る機会となり、臨床推論力や判断力の向上につながったと評価できる。

今後の課題として、理解を実践へ確実に結びつけるための教育方法の強化が挙げられる。全体として高評価である一方、「ややそう思う」とする回答も一定数存在しており、知識の応用や実践化には個人差があることが示唆される。そのため、より具体的な事例検討や演習の充実により、臨床場面を想定した学習機会の拡充が必要である。

また、自由記述では講義時間や進行、休憩時間に関する意見が引き続きみられ、集中力の維持や学習効率の観点から時間配分の見直しが求められる。さらに、研修参加に関しては勤務調整や参加

環境の制約も指摘されており、開催方法や時間設定の柔軟化も課題である。今後は、演習を含む実践的プログラムへの発展とともに、継続教育やフォローアップの機会を整備し、学習内容の定着と臨床実践への支援が必要である。

IV. 石川県看護教員現任研修

1. 目的・目標

- 1) 令和6年度に改定された看護基礎教育モデル・コア・カリキュラムにおける超音波（エコー）検査技術教育のねらいと臨床看護の動向を知り、看護基礎教育に反映させる。
- 2) 看護基礎教育における超音波（エコー）検査の学習目標・到達目標・評価方法を考察する。
- 3) 看護基礎教育に必要な超音波（エコー）検査の技術を習得する。

2. 実施状況

1) 参加人数

| | | | | |
|--------|---------|---------|----------|---------|
| 研修日時 | 8/24（日） | 9/23（祝） | 10/13（祝） | 11/3（祝） |
| 研修参加者数 | 18人 | 12人 | 15人 | 13人 |

2) 参加施設（五十音順）

石川県立看護大学、石川県立田鶴浜高等学校、金沢医科大学、金沢医療センター附属金沢看護学校、金沢大学、金城大学、公立小松大学、七尾看護専門学校
 県外：福井大学 富山大学、洛和会京都看護学校

3. 実施内容

| 開催日 | 時間 | 研修テーマ | 講師 | 開催場所 |
|-------------|--|---|---|-----------------|
| 8/24 （日） | 10:00～ 12:00 13:00～ 14:30 | <特別発言> 令和6年看護基礎教育モデル・コア・カリキュラムにおける超音波（エコー）検査の位置づけ <講演> 超音波（エコー）検査の活用による臨床看護実践－地域ケア・災害医療への活用－ <演習> 看護教員に必要な超音波（エコー）検査の知識と基本操作 | 石川県立看護大学 学長 真田 弘美 石川県立看護大学 教授 松本勝 かほく高松訪問看護ステーション 板坂 恵 梶 愛子 | 石川県立看護大学 研修室 |

| 開催日 | 時間 | 研修テーマ | 講師 | 開催場所 |
|-------------|--|---|--------------------------------|-----------------|
| 9/23 （祝） | 10:00～ 12:00 13:00～ 14:30 | <講演> 看護基礎教育における超音波（エコー）検査技術の教育目標と演習構成－膀胱のアセスメント－ <演習> 看護教員に必要な超音波（エコー）検査の知識と技術（膀胱） <演習> 超音波（エコー）検査教育の課題と対策（膀胱） | 石川県立看護大学 教授 松本 勝 教授 北村 言 | 石川県立看護大学 研修室 |

| 開催日 | 時間 | 研修テーマ | 講師 | 開催場所 |
|--------------|--|---|---------------------|-----------------|
| 10/13 (祝) | 10:00～ 12:00 13:00～ 14:30 | <講演> 看護基礎教育における超音波(エコー)検査技術の教育目標と演習構成-直腸のアセスメント- <演習> 看護教員に必要な超音波(エコー)検査の知識と技術(直腸) <演習> 超音波(エコー)検査教育の課題と対策(直腸) | 石川県立看護大学 教授 松本 勝 | 石川県立看護大学 研修室 |

| 開催日 | 時間 | 研修テーマ | 講師 | 開催場所 |
|-------------|--|--|--------------------------------------|-----------------|
| 11/3 (祝) | 10:00～ 12:00 13:00～ 14:30 | <講演> 臨床看護実践につながる超音波(エコー)検査技術の演習設計 <演習> 超音波(エコー)検査技術の演習設計の立案 <演習> 超音波(エコー)検査技術の演習案の共有と臨地実習での活用 | 福井大学学術研究院 医学系部門 看護学領域 教授 四谷 淳子 | 石川県立看護大学 研修室 |

4. 評価

1) 受講生の学び(抜粋)

(1) 第1回(8月)

- 看護教育の最新の動向、求められる教員の教育力について学ぶことができました。
- モデル・コア・カリキュラムに則った教育の一つとして、次世代を担う学生にとってエコーは必須の技術になると思います。看護師がエコーを使用することが広がると良いと思います。
- コアカリの重要性和コンピテンシーの重要性。
- 看護専門学校のカリキュラムの中で少しでもエコーを活用して学ぶ機会を考えていきたい。
- 実際に注射や採血の演習の中で学生に体験させたいと思いました。
- エコーの基本的知識を学ぶことができよかったです。
- 同僚の教員への説明の根拠を得ました。実際のナースの報告が分かりやすかった。

(2) 第2回(9月)

- どのように教育の中にエコーを取り入れていくことができるのかを考えることができました。
- 他の教育機関の方とディスカッションができて良かった。改めて超音波(エコー)で膀胱のアセスメントができることの大切さを考えられた。今後の教育に活かせるグループディスカッションでした。
- 教育実践についての話がとても参考になりました。毎回、評価をしっかりと、次に活かしていかななくてはいけないと思いました。時間をつくってしっかり評価していきたいです。
- どのように看護教育の中に取り入れて行くかをグループで話し合えたのが良かった。自分のところでは、どこから始めたら良いかなど考えるきっかけとなった。他大学の先生と交流できてよかった。

(3) 第3回(10月)

- 教育プログラムを作成する上で先生の講義内容がとても参考になりました。
- 母性・助産・老年など他の領域でのエコー活用の可能性を聞き、基礎ではどのレベルまで到達したら良いか、少し理解できた気がします。

- グループディスカッションで、他大学の教員と領域を超えて現状と課題をとらえられた。
- どのように教育の中にエコーを取り入れることができるのか考えることができました。
- 注射や皮下組織と筋層の深さ、カテ位置や浣腸の深さなど、評価に使える範囲が広いと感じた。
- 臨地での学びを豊かにするためにも、最新の技術への情報収集をしっかりとしていかななくてはというモチベーションにつながりました。

(4) 第4回 (11月)

- 学年を超えた学習の組み立てを考え、実際の教育演習案をたてることができた。
- 学生のうちにどう臨床につなげるのかをディスカッションできたので学びになりました。
- エコーを教育にどのように取り入れていくことができるのかを具体的に学ぶことができました。
- 具体的にアセスメントツールとしてのエコーをどう取り入れるかを考えることができました。

2) 受講者からの今後の要望

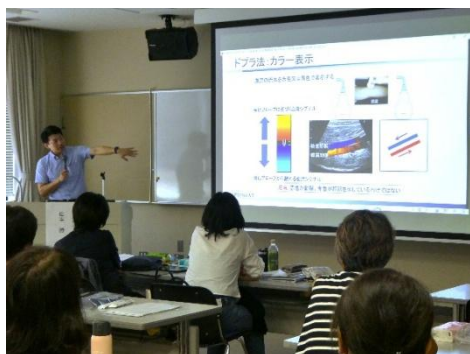
- 教育現場のLGBTQ対応、シミュレーション教育の実践、アカデミックな授業の構成について
- 他の研修も土曜日の時があり、2週に渡り休みが潰れてしまうため、土日祝日は避けてほしい。
- 多重疾患、AMI、HD、DM、骨折、癌などでMEと連携した内容もおもしろいのではないかと思います。

3) 全体評価

超音波診断装置の基本的操作からアセスメントを含めた実技演習により、多くの参加者にとって満足度の高い研修となった。さらに、参加者の情報交換により自施設の抱える問題や解決策が明確になり、今後の具体的な教育実践につながる研修となった。

5. 今後の課題

石川県内の教育機関の連携を深め、看護基礎教育における超音波（エコー）の活用の推進ならびに教育力の向上を図る必要がある。さらに、臨地実習施設と各教育機関が連携することにより、実践力の高い看護基礎教育の実現が期待される。



第1回



第2回



第3回



第4回

V. リカレント教育

1. 目的・目標

石川県の看護の質向上につなげるために、看護キャリア支援センターは「リカレント教育事業（教員企画）」を募集し、4件の事業に対し助成する。

2. 実施事業および内容

| 事業名 | 事業責任者 | 実施月日 | 実施場所 | 参加者 |
|----------------------------------|--------|---|----------------------------------|----------------|
| がん医療における「心」-サイコ オンコロジーの基本と実践- | 臺 美佐子 | 2025. 5. 10 | しいのき迎賓館 | 16名 |
| 皮膚・排泄ケアにおけるスキル アップ講座 | 紺家 千津子 | 2025. 8. 23 | 石川県立看護大学 オンライン | 55名 |
| バイオフィルムのポイントオ ブケア検査法習得 | 峰松 健夫 | 2025. 9. 21 2026. 3. 25 | 石川県立看護大学 | 23名 |
| 高齢者ケアに活かす、生活を支 援するシーティング講座 | 松本 勝 | 2025. 10. 19 2025. 11. 22 | 石川県立看護大学 | 19名 |
| 明日から実践できる！ 災害看 護の基本 | 木田 亮平 | 2025. 11. 8 2025. 11. 29 2026. 2. 7 | のと里山空港 加賀交流プラザさくら 石川県立中央病院 | 70名 |
| 褥瘡ケアに自信がもてる！ ケ アのコツ | 北村 言 | 2026. 2. 19 2026. 3. 15 | 石川県立看護大学 オンライン | 15施設と 個人10名 |

3. 評価および今後の課題

前年度の活動報告については、石川看護雑誌への掲載を働きかけ、全4件が投稿・掲載された。また、今年度の6件の企画は、いずれも予定どおり開催された。

次年度に向けては、2025年12月の教授会において事業開催の意義を説明したうえで、2026年度リカレント教育事業の企画募集を行った。その後、2026年2月に審査を実施し、今年度より1件多い7件の事業が採択された。今後も、事業の申請件数および参加者数のさらなる増加を目指す。

VI. 地域貢献

1. 各機関からの依頼による派遣事業

| 氏名 | テーマ | 主催者名 | 場所・機関 | 年月（西暦） |
|-------|---|--------------------------------|---------------------|-------------|
| 宮崎 梓 | オストメイトを対象とした講演会 内容：ストーマケアの工夫とストーマ外来との付き合い方 | 公益社団法人 日本オストミー協会 石川県支部（虹の会） | 金沢市松ヶ枝福祉館 1階生きがい活動室 | 2025. 9. 28 |
| 松井 優子 | 第6回がん経験者の外見サポート研修会 | がん経験者の外見サポート研究会 | 石川県地場産業振興センター | 2026. 3. 2 |